

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	生体統御ネットワーク医学教育プログラム	申請大学名	大阪大学
申請大学長名	平野 俊夫		
プログラム責任者	米田 悦啓		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生全員参加の英語での論文発表会の定期開催等、当初計画から大きく改善されたプログラムが、順調に立ち上がっている。 ・意見交換を行った5年制博士課程の学生たちの、新分野へと挑戦する意欲・姿勢は大いに好感の持てるものであり、主に既存の医学修士課程の教育システムを用いた初年度の教育システムは、順調に機能しているように見受けられる。 ・一方、本プログラムの真価が問われるのは、4年制博士課程の入学者を迎えるとともに、現在の学生が座学を離れて研究室を中心とした生活を送るようになる来年度以降であると思われる。 ・プログラム責任者、プログラムコーディネーター、更には専任の特任教授まで、本プログラムを担当する教育担当者に関しても、国際レベルで教育と研究に豊富な実績を有する研究者が配置されており、今後の充実した推進体制が期待できる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの基本理念は、「国際化に対応出来ること」や、「広い知識を得ること」ではなく、「新たな融合領域を極めることで国際的なリーダーとなる研究者人材を育てること」であることを、学生と指導者が再確認する必要がある。 ・融合領域を極めるためには、医学系ではない学生が、従来の研究領域を引きずること無く、新たな研究テーマに挑戦できるよう指導体制を充実させるとともに、5年間で、柔軟に研究テーマを変えることが可能なシステム構築も必要である。 ・本プログラムの革新的な複合領域の教育システムを、学内により開かれたものとすると同時に、一旦参画した学生が、本プログラムのシステムに適性が無いと判断される場合の当該学生の進路を準備することが必要である。 ・本プログラム推進組織における指導体制では、「メンター」が非常に重要な役割を果たす形となっているため、これをより明確な制度として位置付けるとともに、その評価制度の確立が求められる。 ・学生との面談において、学生が本プログラムへの参加を希望した際、一部の学生の指導教官が、本プログラムの存在を知らなかった等の発言があるなど、本プログラムに関して、学内での周知が徹底されていないように見受けられた。プログラムの理念から実際の内容まで、特に非医学系の教員にも周知徹底を図り、本プログラムに直接的には関与しない学内の構成員の理解と支持を得ることも重要と思われる。 			